Ⅰ　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

日本文化とは何か─―。これは、明治維新以降、西欧とぶつかり合うなかで、我の違いを思い知らされてきた日本人の頭のなかに、絶えず浮かび上がった問いであったと思います。しかし、よく考えてみればこれは、実は日本というものができたときから常にあった問いです。近代以前の日本の場合、文明は常に大陸のある西からやって来るものだったので、「日本文化とは何か」という問いは、近代西欧と出会う以前から、すぐ西にある大陸（中国）や半島（朝鮮）を見つめ続けてきた日本が抱え込まざるを得なかった、①必然的な問いです。

哲学、歴史学、芸術論、文学、地理学・地勢学、さらに文化人類学、比較文化論など、さまざまな角度からいろいろな日本文化論が提示されていますが、結論を言ってしまえば、日本文化の性格を根本的なところで規定しているのは日本語です。文化や伝統はたえずそれを再生産することによって守られています。どこかの時代で途切れれば、文化や伝統は断絶します。日本の文化や伝統の源をつくり上げたのは日本語であり、またその日本語によって、日常不断に再生産されているものが、文化であり伝統です。漢字と平仮名と片仮名から成り立っている言語である日本語によって、また日本語の文字との関係に、日本文化は規定されています。

　たとえば、「日本の四季」「鳥風月」あるいは「月花」などと聞くと、なんとなくわれわれした気分になります。広告文や雑誌の見出し、店の名前などにこれらの文字が絶えることがないと言っていいほどです。これらの言葉を見たり聞いたりするだけで、自動的に納得してしまうようなところがあります。「春は花が咲き、夏が鳴き、秋は紅葉がⓐ映え、月がえ、冬にはあたり一面を純白の雪がⓑ覆う。ああ、なんと日本の四季は美しいんだろう」というわけです。そう言えば鎌倉時代の僧に「春は花、夏ほととぎす、秋は月、冬雪さえてすずしかりけり」という有名な和歌があります。　Ａ　実際には多くの国に四季があり、同じように季節はうつろっています。したがって問題は、四季の有無ではなく、四季をどのように受け止めてきたかということです。　Ｂ　四季に対して、どういう言葉を使い、どのような表現をし、どのような文体を蓄積してきたかという、受け止め方の違いです。たとえば紅葉は美しいというけれども、それはわれわれが、「紅葉は美しい」という言葉とタイルのなかに浸っているから美しいのであって、違う目で見ればやがて枯れ葉の山を築く赤い葉っぱに変わるという、やっかいな現象にすぎないかもしれないのです。②「カナダの黄紅葉は、日本の比ではないくらい美しい」とカナダヘ旅行してきた人は言いますが、カナダ人が「カナダの四季は世界で最も美しい」と考えることは少ないようです。

　このように考えると、日本の文化の型の一つとして、自然をⓒ賛美するという文化的性格があると言えます。そして、その性格は何によってもたらされ、また今なお守られているのかといえば、明らかに和歌です。古来、和歌は日本の春夏秋冬の美をうたいあげてきました。そして、次第にわれわれはその和歌の表現に従ってものを見るようになっていきました。つまり、和歌の表現と文体を通じて、われわれは多くの美意識を形成したのです。それゆえ、③四季は美しいと思うのです。

（石川九楊『日本語の手ざわり』）

語　注

彼我＝彼と我。相手と自分。

花鳥風月＝自然の美しい風物。

雪月花＝雪と月と花。四季おりおりのよいながめ。

安堵＝心が落ち着くこと。安心すること。

時鳥＝カッコウ科の鳥。古来から日本の文学、特に和歌に現れる。

道元＝（一二〇〇年〜一二五三年）鎌倉初期の禅僧。宗の開祖。

スタイル＝型。

問１二重傍線部ⓐ〜ⓒの漢字の読みを平仮名で答えよ。

問２空欄Ａ・Ｂに入る語として最も適当なものをそれぞれ次から選べ。

ア　そして　　イ　たとえば　　ウ　なぜなら　　エ　しかし　　オ　すなわち

問３傍線部①とあるが、なぜ「必然的」であると言えるのか。解答欄の形式に合わせて、本文中から二十三字で抜き出せ。

問４本文における「日本語」の説明として、あてはまらないものを次から一つ選べ。

ア　日本というものができたときから常にあったもの。

イ　日本文化の性格を根本的なところで規定しているもの。

ウ　日本の文化や伝統の源をつくり上げたもの。

エ　文化や伝統を日常不断に再生産しているもの。

オ　漢字と平仮名と片仮名から成り立っているもの。

問５傍線部②は何を例示している部分か。本文中の語句を用いて十字程度で答えよ。

問６傍線部③「四季は美しいと思うのです」とあるが、なぜ日本人はそのように思うようになったのか。その理由として最も適当なものを次から選べ。

ア　日本では哲学、歴史学など、さまざまな角度から日本文化論が提示されてきたから。

イ　日本人は言葉を見たり聞いたりするだけで、自動的に納得してしまう性格を持つから。

ウ　日本の四季は、世界で最も美しいとされるカナダの四季よりもはるかに美しいから。

エ　日本の風土には他国にはない独自の自然があり、季節ごとに多様な美しさを見せるから。

オ　日本人は四季の美をうたいあげてきた和歌によって、多くの美意識を形成してきたから。

Ⅱ　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

気負い立を迎えたのは、羊のような柔和な目をした、しかし①ひどくよぼよぼのさんである。年齢は百歳をも超えていよう。腰の曲がっているせいもあっては歩く時も地に引きずっている。

相手は耳が聞こえないかも知れぬと、大声にあわただしく紀昌は来意を告げる。②が技のほどを見てもらいたい旨を述べると、あせり立った彼は相手の返辞をも待たず、いきなり背に負うの弓をはずして手に取った。そうしての矢をつがえると、折から空の高くを飛び過ぎて行く渡り鳥の群れに向かっていを定める。弦に応じてたちまち五羽の大鳥が鮮やかにを切って落ちて来た。

ひととおりできるようじゃな、と老人が穏やかな微笑を含んで言う。だが、それは(ア)というもの、好漢いまだを知らぬと見える。ムッとした紀昌を導いて、老隠者は、そこから二百歩ばかり離れた絶壁の上まで連れて来る。脚下は文字どおりののごとき立千、はるか真下に糸のような細さに見えるをちょっとのぞいただけでたちまちを感ずるほどの高さである。そのから半ば宙に乗り出した危石の上につかつかと老人は駆け上り、振り返って紀昌に言う。どうじゃ。この石の上で先刻の業を今一度見せてくれぬか。いまさら引っ込みもならぬ。老人と入れ代わりに紀昌がその石をふんだ時、石はかすかにグラリと揺らいだ。強いて気を励まして矢をつがえようとすると、ちょうどの端から小石が一つ転がり落ちた。その行方を目で追うた時、(イ)覚えず紀昌は石上に伏した。脚はワナワナとふるえ、汗は流れてにまで至った。老人が笑いながら手を差し伸べて彼を石から下ろし、みずから代わってこれに乗ると、では射というものをお目にかけようかな、と言った。まだがおさまらず、ざめた顔をしてはいたが、紀昌はすぐに気がついて言った。しかし、弓はどうなさる？　弓は？　老人は素手だったのである。弓？　と老人は笑う。弓矢のいるうちはまだ射之射じゃ。不射之射にはの弓の矢もいらぬ。

ちょうど彼らの真上、空のきわめて高い所を一羽のがゆうゆうと輪をいていた。そのほどに小さく見える姿をしばらく見上げていが、やがて、見えざる矢を無形の弓につがえ、満月のごとくに引き絞ってひょうと放てば、見よ、鳶は羽ばたきもせず中空から石のごとくに落ちて来るではないか。

紀昌はとした。今にしてはじめて③芸道の深淵をのぞき得た心地であった。

（中島　敦『名人伝』）

語　注

紀昌＝この物語の主人公。弓の名人を目指している。

白髯＝白いほおひげ。

楊幹麻筋の弓＝柳の幹を麻糸で巻いた強い弓。

石碣の矢＝石碑をも貫くような鋭い矢。

一箭＝一本の矢。

壁立千仭＝壁のように険しく、非常に深い谷間。

烏漆の弓＝真っ黒に漆を塗った弓。

粛慎の矢＝古代中国北方の粛慎国が貢ぎ物にした矢。

甘蠅＝ここで登場する老人の名。

問１　波線部ア「所詮」・イ「覚えず」の本文中における語句の意味として、最も適当なものをそれぞれ次から選べ。

ア　ア　元のまま　　イ　以前と同様　　ウ　結果として　エ　最後まで　オ　今少しのところ

イ　ア　自分で意識しないでするようす　イ　物事にこだわらないようす　ウ　配慮がかけていること

　　エ　不注意でぼんやりしているようす　　オ　期待しないこと

問２　傍線部①について、このような「爺さん」のイメージ（人物像）が変化するのはどこからか。イメージが変化する文の最初の五字を抜き出せ。

問３　傍線部②と言ったときの紀昌の気持ちとして、最も適当なものを次から選べ。

ア　自分に才能があるかどうかわからないので、高名な先生に判定してもらうために見てもらいたい。

イ　自分の才能にも技にも強い自信があり、自分よりできる者はいないことを示すために見てもらいたい。

ウ　自分の技に強い自信はあるが、高名な先生と比べるとどうかわからないので見てもらいたい。

エ　自分の技に強い自信があり、それを高名な先生に認めてもらうために見てもらいたい。

オ　自分の技に全く自信がないので恥ずかしいが、教えをこうために見てもらいたい。

問４　本文の一番の山場（盛り上がったところ）はどこか。一文の最初の五字を抜き出して示せ。

問５　傍線部③「芸道の深淵」とあるが、具体的にはどういうことか。本文中の語句を用いて二十字以内で説明せよ。

問６　紀昌の弓の技と老人の弓の技の違いを表した言葉をそれぞれ五字以内で抜き出し、その内容をそれぞれ十字以内で説明せよ。

Ⅲ　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

Ａ　　春すぎて夏にけらしのすてふの　　天皇

新古今集にもこの百人一首にも、衣干すてふと書かれたるは(ア)不審なる事なり。すべて歌の言葉にてふといふは、といふといふ言葉をつづめたるものⓐにて、恋をするといふ事を恋すてふといヘるがごとし。しかればこに眼前衣の干してある事を、①衣干すてふとませふべきにあらず。この故に百人一首の諸家の註釈、いづれもこの歌の解に様々のむづかしき説どもをつけながら、明らかに解き得たるも見えず。ここに②一つの考へあり公に院の第二度の百首とてあり。その冬の歌のうちに、

Ｂ　　雲晴るる雪の光や白妙の衣干すてふ天の香具山

と詠まれたり。この後京極殿は卿と同じ時代の人なるに、我が歌に持統天皇の御製を三句ながらそのままⓑにて③盗み詠み給ふべきにあらず。この後京極殿の歌の心は、かの万葉集にある持統帝の御製の、衣さらせり天の香具山と詠ませ給ヘるは夏の初めの景色なるを、今雲の晴れたる後の雪の光の真白に見ゆるにつけて、昔持統帝の衣さらせりとひし天の香具山の景色も、かやうにありたるにやと思ひ合はせて詠まれたるなり。干すもさらすも同じ心なれば、これⓒにて、(イ)よく聞こゆるなり。されば新古今にもこの百人一首にも、後京極殿の歌と持統帝の御製とを一つに混じて、書き伝へたるものなるべく思はるるなり。

（尾崎雅嘉『百人一首一夕話』）

語　注

持統天皇＝第四十一代天皇。天智天皇ので、天皇の皇后。

御製＝天皇や皇族が作った詩文や和歌などのこと。

後京極摂政良経公＝藤原良経。藤原俊成・定家を後援し、新古今調樹立の基礎を築く。

月清集＝『月清集』。藤原良経自撰。六家集の一つ。

院＝後白河院。

問１　二重傍線部ⓐ〜ⓒの「にて」について、例にならって文法的に説明せよ。

例　さやうのもの、なくてありなむ。→完了の助動詞「ぬ」の未然形「な」、推量の助動詞「む」の終止形「む」

問２　波線部ア「不審なる事」、イ「よく聞こゆるなり」の本文中での意味として、最も適当なものをそれぞれ次から選べ。

ア　 ア　さまざまに考えること　イ　勢いがふるわないこと　ウ　誠実さがないこと

エ　心を悩ますこと　　オ　疑わしいこと

イ ア　よく光景を想像できるのである　イ　よく世間に伝えられているのである

ウよく納得がいくのであるエ　よくできた歌なのである　オ　よく誤解する者がいるのである

問３　傍線部①「衣干すてふと詠ませ給ふべきにあらず」とあるが、その理由を簡潔に述べよ。

問４　傍線部②「一つの考へ」の結論が示されている一文の最初の六字を抜き出せ。

問５　傍線部③「盗み詠み給ふべきにあらず」について、

1. 主語を明らかにして口語訳せよ。
2. Ｂの和歌のどの部分について言ったことか。該当箇所をそのまま抜き出せ。

問６　本文の内容に合致するものを次から一つ選べ。

ア　万葉集に持統天皇の歌を「衣さらせり」と記しているのは、他の歌と混ざった結果である。

イ　「衣干すてふ」も「衣さらせり」も意味が同じなので、どちらにしてもよい。

ウ　新古今和歌集や百人一首の持統天皇の歌が「衣干すてふ」とあるのは、他の歌と混ざった結果である。

エ　Ｂの和歌は、Ａの和歌と同じ場所で同じ季節を詠んでいる。

オ　Ｂの和歌は、新古今和歌集の持統天皇の歌を念頭に置いて作られている。

Ⅳ　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

　　＊　夫　人　病　　ⓐ　　＊㆑　、夫　人　  
㆑　＊　　、　　㆑　、　　　、不㆑  
㆓　　㆒㆑　。①　㆓　　　兄　㆒　㆑　。上　、夫　人　　、　㆑　㆑　。　㆑　、㆓　　王　　兄　㆒、②　不㆑　。夫　人　、婦　　貌　㆓　修　 ㆒、不㆑　㆓　＊君　㆒。③妾　㆘　　㆓　　㆒ ㆖㆑　。上　、夫　人　＊　　㆑　、　㆓　＊　千　㆒　而　㆗　兄　　尊　㆖。夫　人　、尊　　㆑　、㆑　㆓　一　㆒。上　  
㆑　㆓　　㆒㆑　。夫　人　ⓑ　＊転　　＊　　而　④不㆓

㆒。ⓒ㆑　　上　㆑　　而　。

（班固『漢書』）

語　注

李夫人＝前漢の（在位紀元前一四一～紀元前八七）の側室。

上＝天子。ここでは武帝のこと。

候＝見舞う。機嫌を伺う。

被＝布団。

毀壊＝せほそる。やつれ果てる。

王＝武帝との間に生まれた王のこと。

君父＝君主と父。

燕媠＝だらしないこと。

弟＝ただ。「直」に同じ。

賜＝目上の者が目下の者に物を与えること。

転郷＝向きを変える。向こうむきになる。

歔欷＝すすり泣く。

問１　二重傍線部ⓐ「自」、ⓑ「遂」について、ここでの意味をそれぞれ答えよ。

問２　二重傍線部ⓒ「於是」の読みを送り仮名も含めて、平仮名で答えよ。

問３　傍線部①「願以㆓王及兄弟㆒為㆑託」、②「豈不㆑快哉」について、それぞれ書き下し文に直せ。

問４　傍線部③「妾不㆘敢以㆓燕媠㆒見㆖㆑帝」について、

1. 書き下し文に直せ。　⑵　口語訳せよ。

問５　傍線部④「不㆓復言㆒」について、何を「不㆓復言㆒」なのか。その内容を整理して二つ答えよ。